

## 小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 苗場福祉会	代表者	湖山泰成	法人・ 事業所 の特徴	法人：創設30周年を迎える。新潟県を拠点に埼玉、千葉、群馬事業部と事業展開している。法人の理念は「自らが受けたいと思う医療と福祉の創造」新潟県の認知症介護研修を請け負い、認知症ケアの普及に尽力している。 事業所：開設から8年。中央区・東区を中心に単身及び高齢者世帯が増加する中、生活の中での心配事や困り事に寄り添い在宅生活を支えられるように努めている。利用者のできる能力を引き出せるようなケアを実践している。
事業所名	(千防) 小規模多機能型居宅介護マロニエ	管理者	高橋舞子		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	人	人	2人	3人	3人	1人	1人	9人	人	19人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	午後からのミーティングの継続。モニタリングは仕組み作りを継続する。書式ややり方は模索しながらより良い方法を探っていく。	午後からのミーティングが定着化し、午前中の申し送りを午後のケアに活かせるとともに介護記録のシステムにて即座に記録に残し翌日申し送ることができた。即座のケア変更ができるようになった。	(包括) 訪問ミスや連携がうまくいかないと話されている事業所が多いとお聞きしていますが、毎日のミーティングの仕組みができていて十分がんばっていると思います。	変更した情報が、業務日誌だけで終了しないように、決定事項のインプットを明確にしていく。
B. 事業所のしつらえ・環境	季節の装飾。担当を決めてより組み。掲示スペースの作成。テラスを有効活用し喫茶スペース等に活用する。フロア内に花や植物を増やす。	イベント委員会では毎月季節の花をフロアに飾ったり、花壇にてかぼちゃを植えて収穫したものを煮て食べたりした。フロア内は観葉植物を増やし、居室にも飾った。自宅で畳の方はベッドではなく布団対応できるように環境を作った。	・フロア、居室はキレイにされていると思います。 ・自宅からなじみのものを持参してもらい、いろいろ工夫されていることを確認しました。	花壇を活用し野菜や花など日常的に触れて季節を感じる活動を行う。装飾は子供じみたものではなく季節が感じられるようなものを利用者と一緒で作成する。
C. 事業所と地域のかかわり	担当者会議に地域の方が参加できるケースは声掛けをしてプランにも取り入れる。家族へ了解を得て、一人暮らしの方の行動パターンを探り、立ち寄りポイントの商店などへ挨拶などを行いつながりを作る。	担当者会議に地域の方は入るまでにはいかなかったが、商店・銀行などはどこでもよいのではなく利用者最寄りの場所を利用した。実際に家族と利用者の写真を持参し行方不明の場合の声掛けをスーパーマーケットへお願いしてきた。	・行方不明のY取組みに関しては一部だけだが、できたのは良いこと。 (事業所) 推進会議が発信で小学校への介護授業も受けられ、またそれが関連施設でも展開できたことは有効だったと思います。	地域支援（友人や隣人などのインフォーマル支援）も積極的に取り入れる。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	感染対策を徹底し外出企画を立案していく。訪問支援や・通いの送迎時にはご近所への挨拶を徹底していきます。	ご近所への挨拶はもちろんのことゴミ出しや雪かきなど声を掛け合い地域の支援ができた利用者もいる。	・なじみのスーパーでの買い物などはグループホームでも取り入れていきたいと思いました。 (地域) 地域のイベントへの参加はできていないがそもそもないので仕方ないと思う。次年度はいろいろできそうですね。	事業所はもとより、利用者の住んでいる地域の資源を活用し、行事や社会活動などへの参加をしていく。
E. 運営推進会議を活かした取組み	夕方の下校時の小学生の見守りなどは散歩をしながら対応できるようにグループホームとも協力しながら地域へ出ていく。駐車場にベンチを置きそこで夕涼みしながらの見守りの実施。	10月 日には沼垂小学校への介護授業を請け負い、小規模の職員が学校に赴き講義をした。また、2月はビデオ交流をして動画での交流を行った。夏はテラスでお茶を飲み、登下校の学生を見守った。	・運営推進会議に地域の方の参加があることで、小学校との交流が実現したことはとても良いことだと思います。	認知症カフェの開催や介護教室、地域のサークルの再開など、感染対策でできなかったことを再開させる。
F. 事業所の防災・災害対策	感染対策に留意して法定の避難訓練は規定通り実施する。運営推進会議の中で地域の方へ施設の非常口や構造を知っていただく機会を作る。	年に2回の防災訓練は実施できているが、感染症の関係で地域の方の参加までには至らず。今年度は水害想定として1階から2階へ非難する訓練も実施した。冬季の降雪時は事前に天気予報を確認しながらひとり暮らしの方には宿泊をいただき送迎の事故もなく、身元の安全を確保した。	・天候に合わせて特に冬期間などはサービス変更が行われていることがわかりました。 ・実際に防災訓練に参加していないので「いいえ」と「わからない」にしました。地域の人たちはここに施設があることで頼りにしていると思います。	運営推進会議での防災訓練の開催で地域の方と一緒に訓練を実施し、参加の際には施設の構造などを案内し、非常口等を確認してもらう。